

## 令和元年度職業能力開発論文コンクール「受賞者の声」

受賞者：特別賞（独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 理事長賞）  
前島 和雄 氏

所属：愛知障害者職業能力開発校

テーマ：障害者に対する職業能力開発

論文名：愛知障害者校における新たなる取り組みについて



### 受賞者からのメッセージ

この度は、職業能力開発論文コンクールにおいて、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞という素晴らしい賞を賜り、光栄の至りに存じます。心から感謝申し上げます。

私は、平成17年度から論文を書き始めました。平成17年度と平成19年度に独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構理事長賞、平成27年度は論文コンクール最高賞である厚生労働大臣賞（特選）、平成29年度は厚生労働大臣賞（入選）を受賞いたしました。そして今年度に、5度目の受賞を賜ることができました。受賞論文全てのテーマは「障害者に対する職業能力開発」とし、障害者の職業訓練に対する私の強い気持ちを伝えています。

私は、県公共職業能力開発施設に勤める職業訓練指導員です。同僚からは、「なぜ論文を書くのか？」と質問を受けることがあります。その時に私は、「なぜ論文を書かないのか？」と答えます。私は、職業訓練の成果を論文にまとめ発表することは、職業訓練指導員の大切な職務の一つと考え、職業能力開発論文コンクールは、職業訓練に携わる者にとって、その役割と成果を社会へ伝える素晴らしい機会の場合と考えます。

今回の論文は、平成27年度に受賞した「愛知障害者校における精神障害者等への支援強化策について」の続編的位置づけとなります。愛知障害者職業能力開発校（以下「愛知障害者校」という。）では、平成26年度から取り組んできた各種支援策について、PDCAによ

り常に見直しを行い前に進んでいます。そして、そのノウハウを基に、令和2年度から精神障害者・発達障害者を対象とした訓練科「ワークサポート科」と、導入訓練「就業支援科」が始まります。本論文は、新設科設立に向けた準備期の投稿であるがゆえ、結果についての分析考察までに至っていないにもかかわらず受賞することができたことは、大変意義のあることであり、今後に期待されたことと考えます。令和2年度に始動する新設訓練科にどのような課題が発生し、そしてどのような成果を得るかなど、継続的な研究と発表を愛知障害者校として進めるように努めていきたいと思えます。

愛知障害者校の取組みが、他障害者能力開発校始め職業能力開発施設に参考になり、障害者への職業訓練が拡充し、多くの障害のある方の雇用の機会が、更に増えることを望みます。

「障害者の職業訓練に携わる者、毎日が模索であり勉強です。そして、前進です」